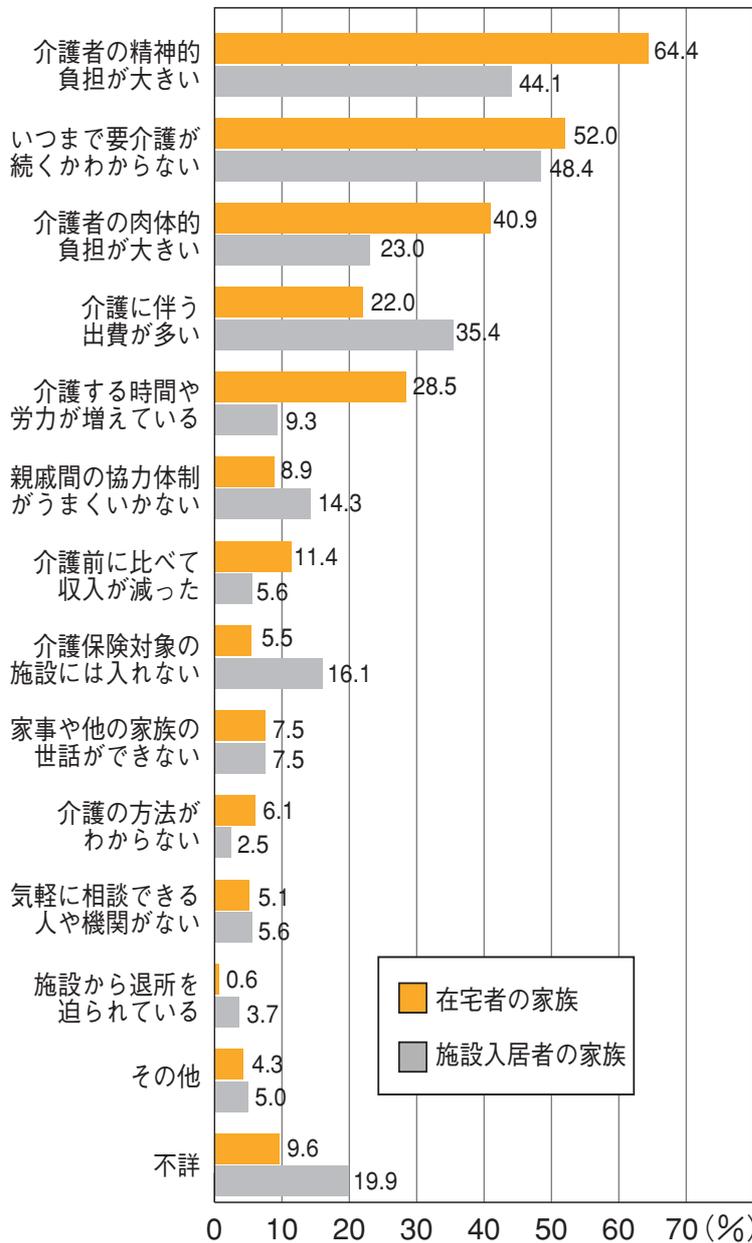


また、介護予防が介護保険制度の目玉になりつつあります。筋肉トレーニングや低栄養対策、痴呆予防など介護予防のメニューも示されています。これらは女性に焦点をあてた対策と聞いています。これまでの生活習慣病対策は男性を中心に考えられてきたからだろうです。要介護状態になる原因で、男性は脳卒中が半分、女性では脳卒中が3分の1、転倒が3分の1、痴呆が3分の1だということです。寿命が男性より長い女性の介護の問題をもっと女性の視点で考える必要があります。

今後への提言

人間は誰でも必ず老いて死んでいきます。これほど平等なことはありません。私が老後の問題に関心を持ったのは、今から25年前です。公民館の保育室を利用して女性問題講座（当時は婦人問題講座）でのことです。講座の中で話し合いをしているとき、わがままで周囲の人に感謝することのなかったお姑さんを看取ったばかりのメンバーの一人が「小さな子どもを持っている人に言いたいことがある。わがままに育てているとその子が年取って介護を受けるようになった時、まわりが大変になるし、本人が一番不幸だから。姑はさびしく私の腕の中で亡くなった」という話をし

要介護者を抱えて困っていること（三つ以内選択）



資料：(財) 連合総合生活開発研究所「介護サービス実態調査」(平成13年)

てくれました。小さいときの教育が人間最期のときに影響することを教えてもらいました。
育児から教育、そして介護における「男だから、女だから」という意識を取り払い、男も女も「人」として自立して暮らすことを考えようではありませんか。
そうすれば、親の介護の問題も、夫婦のいい関係をもって解決することができるでしょう。また、今は親の介護で

忙しいシングルや、親の介護の問題はないが、独身貴族を卒業したシングル自身の老後もこれからの大きなテーマといえましょう。

筆者紹介

NPO法人サポートハウス年輪理事
著書 「介護保険はNPOで」
「ホームヘルパーと上手につきあう」
「別居介護」等